

「中山間地域のモデルを創る“創造的過疎”のまちづくり」 ～ 人口減少社会を見据えたスマートシュリンクと「人への投資」～



SDGsまちづくりのまち



日南町

Nichinan Town

人口約3,500人(R8.7.31時点)
高齢化率 56.2%

少子高齢化が進行する
「日本の30年後の姿」

SDGs未来都市選定 (2019年度)
2050年ゼロカーボンシティ宣言 (2020年度)
内閣府・地方創生SDGs金融表彰 (2021年度)
総務省・ふるさとづくり大賞 (2021年度)
NIKKEI脱炭素アワード (2021年度)



中国山地のほぼ中央に位置し、面積の9割が森林
過疎、少子高齢化が進行する「日本の30年後の姿」の町として
多くの学術機関におけるモデル地域となっています

農林業を基軸として、緩やかな人口減少を実現させる
町民総活躍の「創造的過疎」のまちづくりへ挑戦しています





人口最少県の鳥取県の中で、一番高齢化率の高い自治体。
町の面積の9割を占める森林資源を活用し、
過疎、少子高齢化が進行する「日本の30年後の姿」として、
中山間地域のモデルを創る「創造的過疎」のまちづくりへ挑戦しています。

SDGs未来都市選定(2019年度)

2050年ゼロカーボンシティ宣言(2020年度)
内閣府・地方創生SDGs金融表彰(2021年度)
総務省・ふるさとづくり大賞(2021年度)
NIKKEI脱炭素アワード(2021年度)



日南町のコンパクトヴィレッジの取り組み

住むのは住み慣れた地域。生活に必要な機能を中心地域に集約し、交通ネットワークでつなぎ、山間地域の暮らしの利便性を高めます。



コンパクトヴィレッジのポイント

- ✓ 住み慣れた地域に住み続けられる
- ✓ 生活に必要な機能を中心地域に集約し、効率的にサービスを提供
- ✓ デマンドバスと巡回バスの組み合わせで、山間地域の暮らしの利便性を確保

人と地域のつながりを大切にしながら、持続可能なまちづくりを目指します。

自ら考え、動く地域自治組織「まちづくり協議会」発足から20周年 ～行政主体から住民主体へ、公民館を地域運営組織へと転換～



平成17年度

町内2つの地域を先行して組織発足

平成18年度

7地区全てのまちづくり協議会設置

「専任職員」配置

平成22年度

各まちづくり協議会に5か年計画策定

平成24年度

「集落支援員」を全地域に配置

令和8年度

まちづくり協議会発足20周年



「意思決定」「地域間調整」「産業振興」
各地域の強みを生かした取組が展開

2. 20年間、地域でどんな取組が重ねられてきたのか

20年間の歩み ～住民の実感から見える地域自治の現在地～

7つの地域で積み重ねられてきた実践は、交流・福祉・防災をはじめ、地域の将来像づくりなど、地域自治の土台を着実に育ててきました。

令和7年度の幸福度調査でも、「地域とのつながり」・「町内への愛着」・「コミュニティ活動」などにその積み重ねがうかがえます。

幸福度調査は、協議会の成果を直接証明するものではありませんが、20年間の地域づくりが住民意識にどう表れているかを示す重要な手がかりです。

令和7年度版Well-Being幸福度調査

(偏差値)

「日南町住民アンケート」より抜粋



いずれも極めて高い評価結果が得られました

素材生産量は
鳥取県の1/3の面積で
県内の約4割を生産



森林資源の宝庫

- ・町の面積の約9割が森林
- ・豊かな森林が育む清らかな水と空気
- ・充実した森林資源（人工林が充実）

全国初の町立林業アカデミー



- ・林業の担い手を育成
- ・実践的な研修で即戦力に
- ・Uターン・Iターンを支援

森林教育の推進

- ・子どもから大人まで
- ・森の価値や大切さを学ぶ
- ・未来を担う人づくり



日南町の循環型林業

「伐って、使って、植えて、育てる」循環で、未来の森をつくる



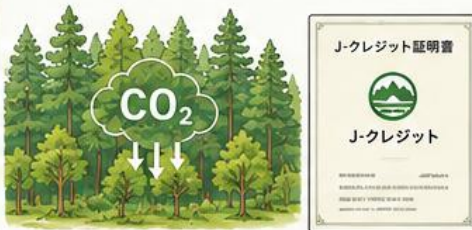
地域の木を地域で活かす

- ・公共建築物の木造・木質化
- ・製材・加工による付加価値の創出
- ・木質バイオマスエネルギーの活用



カーボンクレジットの創出

- ・適切な森林管理によるCO₂吸収量をクレジット化
- ・森林の価値を「見える化」し、収益を森づくりへ



企業の森活動

- ・企業と連携した森づくり活動
- ・CSRやSDGsの取り組みとして貢献



循環型林業の サイクル



伐って

計画的に伐採し、
森林資源を活用



使って

木材を地域で使い、
資源の価値を最大化



植えて

伐採後は必ず植林し、
森林を再生



育てる

手入れをして、
次の世代へつなぐ

森林の恵みを未来へつなぐ
それが日南町の循環型林業です

持続可能な農業に向けて(オーガニックの産地づくり)

- 本町は、県内初の「オーガニック(有機)の産地づくり」に挑戦中。※3か年事業(R5~7年度)
- 初年度(R5年度)は、米やニンジンの実証栽培のほか、学校給食での提供、先進地視察や普及啓発などに取り組み、一定の手応えを感じているところ。
- R6年度も引き続き、町内農家や関係機関等と連携し、生産から加工、流通、消費までの一連の取組を加速化させていきます。

<実証栽培農家さんの声>

- ・今年度初めて有機米の実証を行った。3圃場で125a。ソフトバンクの電波が悪く、直進アシスト機能が使えなかったのが課題。また、除草機はオペレーターの経験が重要。出穂までは雑草の影響が少なかったが、出穂後は雑草が茂り、刈り取りにも影響あり。これも今後の課題。育苗も化学肥料が使えないので成長が遅い。来年も有機でチャレンジしたい。
- ・ニンジンも過去4年慣行で栽培。除草が一番大変であるが、機械化で一気に手間が省けた。また、太陽熱消毒の効果は抜群であった。元肥をしなかったため、3回追肥をしたが、慣行と比べても有機は遜色なし。



人口が減っても、未来への挑戦は減らさない。

SDGsまちづくりのまち



日南町

Nichinan Town

